エゾリス

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

〖会報１２８号〗2021.04.24

知床実習レポート

北海道大学獣医学部 4 年　伊藤萌林

［日本野生動物医学会学生部会とっかり支部長］

久しぶりの会報登場です。前書いた時からは2年も経っていますが、数字が増えただけで肩書きはまだ学生です。獣医学部は6年制なのでまだまだ中盤戦といった感じで勉強することが山ほどあって困ります。野生動物系獣医師を目指している私ですが、実は獣医学部では野生動物のことは全くと言って良いほど学ばないので余計困ります。ではどのように野生動物について学ぶのか？というと、ほぼ独学になります。本や論文を読んだり、講演会に出たり、フィールドワークしたり… その中でも特に勉強になるのは実際の現場での実習です。

この春休み、私は知床の生態系保全の要とも言える「知床財団」で1ヶ月間実習させていただいて来ました。その実習を通して感じたこと、思ったことを書いてみようと思います。

「知床」というとどのようなことを思い浮かべるでしょうか？流氷、クマ、ワシ、綺麗な山、、、、テレビなどメディアで見る知床はそんな感じでしょうか。そんな知床は実際には存在しない？…かというと全くそんなことはありません。流氷を見ながら出勤、上空には優雅に羽ばたくオオワシ、作業から帰ると雪化粧した知床連山に出迎えられ、帰宅するときは流氷に沈む夕日が見られます。こんなことなら是非とも知床で働きたい！と思いました。この原稿依頼を受けるとき、「観光地としての非日常（ハレ）の知床ではなく、日常（ケ）の知床について書いてくれ」と言われていました。実際の知床は、ハレはケの一部分という感じでした。

「ハレ」が問題を引き起こすことがあります。その一つはいわゆるヒグマ問題です。ヒグマは日本最大の陸上哺乳類として、知床の大きな魅力の一つでもあり、一方で人と遭遇すると人身事故などの脅威になり得る生き物です。

一生に一度しかないであろうヒグマとの遭遇に観光客はテンションが上がってしまい、つい車から降りてヒグマに近づいたり、写真を撮ろうとするのでしょう。
しかしその繰り返しにより、本来怯えて人前に出てこないはずのヒグマが人になれ、市街地に出てくるようになってしまうのです。そうなると次はそこに住む人たちが危険に晒されます。普段は大人しくても、人間の数倍の巨体で迫られては何が起こるかわかりません。

ヒグマ問題では餌付けが絡む事例が多いです。おそらく「餌付け」と聞くとヒグマに対して直接餌を投げている様子が思い浮かぶと思いますが、実際は非意図的な場合も多いです。インターン中には、観光客の食料品のポイ捨てに親子グマがやって来たという事例がありました。ポイ捨てした人は観光で訪れた場所でたまたまその日何も考えずに捨てたのかも知れません。しかし、それが何人と積み重なると徐々にヒグマの生活圏が人の生活圏に重なり、大事故につながる可能性があるのです。

知床ではどのようなヒグマ対策が行われているのでしょうか。いくつか紹介したいと思います。
まず電気柵。これはあまり知られていないのですが、ウトロの市街地は電気柵で囲われています。これによってクマの生活圏と人の生活圏を分けるわけです。…と簡単に言いますがこれはすごい大変な作業です。まず春先はクマが起きるか起きないかという時期に雪に埋まった電気柵を掘り起こして修復し、夏は下草を刈り、倒木を撤去します。維持管理だけでも大変な労力だなと感じました。

次に DNA 分析による個体識別。どの個体が問題個体か？を個体識別により検討します。実は私が所属する（予定の）研究室でその分析を行なっています笑。電気柵もそうですが、お金と手間がかかりそうで、巨大観光地の知床だからこそできることだなと感じました。
「クマの見方」を変えようという対策もあります。「ハレ」ではどんな人も舞い上がってしまうので、確実にクマと一定の距離がとれ、餌付けする余裕すらないところからクマを見てもらおうということです。例えば観光船に乗って海から海岸に来るクマを見たり、自家用車ではなくシャトルバスを使って移動するといった対策です。インターン中もヒグマが出るとすぐに車が次々に停車して車から降りてくるといったことが何回かありました。（コロナでそもそも観光客少ないのに…） そもそも人がヒグマに近づけるような状態を作らないことが必要だなと感じました。

今回の実習ではここには書けないような現場ならではのことを沢山学ぶことができました。これからもいろんな所に実習に行ければ良いなと思っています。

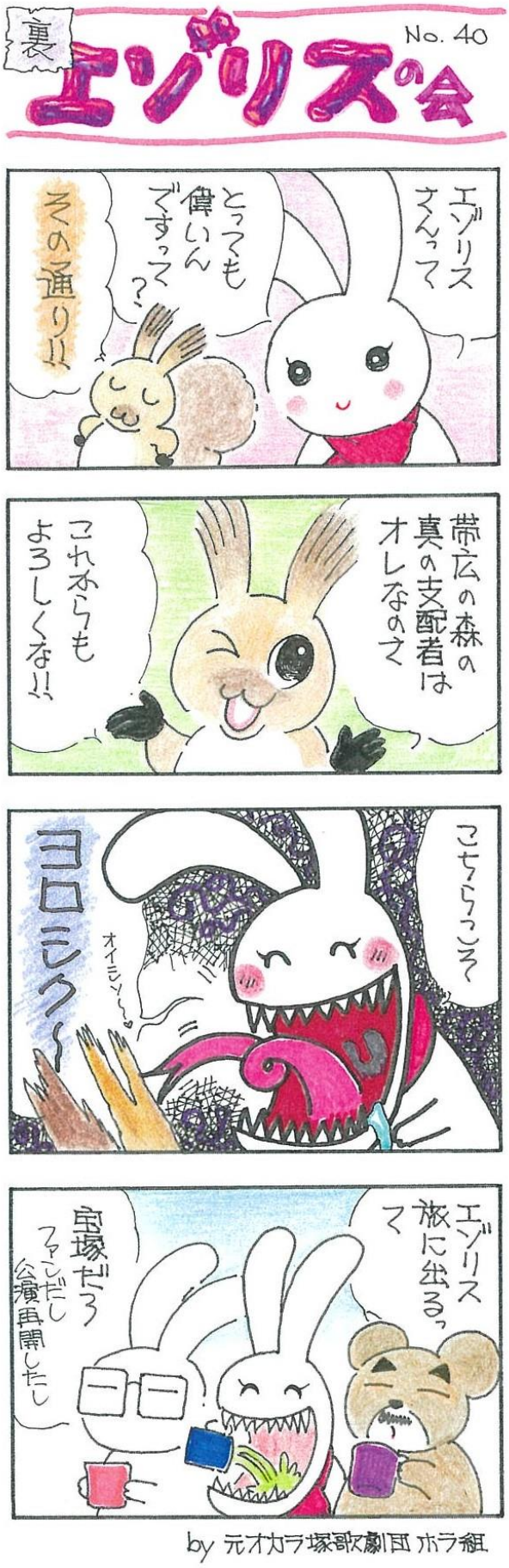
パネル展開催中

　エゾリスの会の活動内容が満載のパネル展を開催しています。
ぜひご覧ください。
日時：5月8日午後3時まで
場所：帯広の森はぐくーむ

編集後記：バイデン大統領が復帰した「パリ協定」COP26が11月に開催されるようですが、時の首脳による心変わりで、地球の運命を左右することだけは慎んでもらいたい。
　地球の民（すべての生物）より！！

n.m

エゾリスの会　会報128号
発行日：2021.０４．２４
発行：エゾリスの会
ＨＰ：ezorisunokai.jp
〒080-0027
帯広市西17条南3丁目6-14
☏　0155-33-4223
info@ezorisunokai.jp



エゾリス

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

〖会報１２９号〗　2021.06.28

帯広の森は楽しい！

　帯広の森に行ったことがありますか。野球を観に行った。プールに行った。スケートを滑りに行った。パークゴルフをプレーしてきた。歩くスキーで森内を散策した。
もう少し森と連想されることはないでしょうか。
「エゾリスを見に行った」「はぐくーむに行った」「園路を歩いてきた」
　もう少し、視線を下に向けてみてください。広葉樹の葉っぱの下や下草の中に、周辺の色とは違い、またそれほど自己主張するでもなく薄紫の花をつけるフデリンドウを見ることができます。
踏まないように歩きましょう！
カシワ林等の樹林の下には、らせん状の下向きに花をつけている上品なピンクのベニバナイチヤクソウが群生しています。
　時は戻りますが、早春にはフクジュソウが咲きほこり、その後青紫色の花をつけるエゾエンゴサク、薄いピンクをまとい花が開くと純白が鮮やかなアズマイチゲが迎えてくれます。

フデリンドウ

ベニバナイチヤクソウ

第２柏林台川の水辺周辺で水芭蕉が咲き始め、その白さときわっだって、ひときは目にひく植物があります。仏像の光背に似ている赤褐色の花弁のような葉に包まれ、その中にはクリーム色をした物下突起をもった楕円形の植物を見ることがきます。

ザゼンソウ（坐禅草）です！

池の中に目を向けると、エゾアカガエルの合唱が聞こえてきます。産卵が最盛期を迎え卵塊が２重３重にホットケーキのように盛り上がっています。池に浮いている木の枝にはエゾサンショウウオの卵嚢がぶら下がっています。５月の中旬にはオオバナノエンレイソウが林床に白いじゅうたんを敷き詰めます。負けじとニリンソウも小ぶりの白いじゅうたんを敷き詰めます。

５月下旬になると森内で大きな音を奏でるエゾハルゼミと、アオジ、センダイムシクイ等の鳥類が大合唱を奏でています。リズムをツツドリがボゥボゥととっています。

これからは、チョウの舞いを楽しむことができます。

コロナ禍の中ですが、森に足を運んでみてください。楽しいですよ。８月になると、立ち姿がきれいなオオウバユリの緑白色の花が出迎えてくれます。

なお、月並みですが「森の中では、目を楽しむこと、記憶に残すこと」それ以外はご法度です。

（三日市則昭：記）

当会の総会が、5 月 30 日に帯広の森観察小屋の屋外で 10 名が参加して行われ、決算、予算等が承認されました。

２０２１年度事業計画

１．自然と触れ合う事業

ａ）自　然　観　察　会　等　　２回開催

第１回「帯広の森のチョウを見つけよう」　と　き：未定

ところ：モニ 1000 チョウ調査区

第２回「観察小屋周辺観察会　　と　き：２０２１年１２月１９日（日）

「冬至祭」　　ところ：森内、観察小屋

ｂ）動植物を考える他団体との連携

・園路沿いの池の泥上げ（協力）　　・共同観察会の開催

・森づくり協議会に参加

２．調　査　事　業

ａ）エゾリス生息マップの作成（帯広市内）継続事業

シマリス情報の収集・道路横断の実態・緑ヶ丘公園の生息マップ作成

ｂ）帯広市委託調査（帯広の森の小動物の生息調査）

＊エゾリス分布調査　調査月日：　　「エゾリス・センサス」

５月３０日（日）　　６：３０集合　　（６月６日予備日）

１０月３日（日）　　６：３０集合　　（１０月２４日予備日）

集合場所：帯広の森・はぐくーむ　駐車場

＊チョウセンゴヨウ松の結実調査　　帯広の森内（秋の調査時１０月３日）

ｃ）表土まきだし調査（帯広の森）　　手入れ

ｄ）ＦＧＦの助成が終了したことから、モニタリング等里山Ｐで活動する。

３．（財）日本自然保護協会主催の「モニタリングサイト１０００」事業（2008 年～）

帯広の森内で、鳥類調査、植物調査、チョウ類調査、哺乳類、カエル、

調査データを活用して、帯広の森管理プラン作成に利用する

４．エゾリスの会広報事業

ａ）会報の発行　４回発行

ｂ）エゾリスの会リーフレット作成

５．里山をつくろうプロジェクト

・２０２１年６月から月１回

・間伐、草刈り等

６．創立３５周年（２０２１）記念誌の発行（資料収集）１９８６年（Ｓ６１年４月）発足

７．エゾリスの会調査研究基金の設立：モニタリングサイト１０００会計に調てるため、基金を設ける。

基金額：５０万円

【会員規定】

１．会費を納入することによりエゾリスの会会員となる。

２．会員となることにより、優先的に会の事業への参加、備品の使用が行える。

３．２年間会費を納入しなければ退会したものとみなす。

会費納入のお願い

２０２１年度の会費の納入を受付けておりますので、よろしくお願いいたします。

当会は、皆様の貴重な会費で運営しておりますので、なるべく早い機会に収めていただければ幸いです。

〈封筒のお名前の下の番号が納めていただいている年度です。〉

例：２０Ａは２０２０年度個人会員、２０Ｂは２０２０年度家族会員、２０Ｃは２０２０年度賛助会員です。

【会費区分】

個人会員（A）　　５００円

家族会員（B）　１，０００円

賛助会員（C）　１，０００円（１口）　何口でも結構です。

【納入方法】

・十勝・帯広にお住いの方は、同封致しました振込み用紙により帯広信用金庫本支店から振り込んでいただきますと手数料が無料となりますのでご利用ください。

・郵便局からは、郵便振替でお願い致します（手数料はご負担願います）。

振替口座番号：０２７１０－５－４６１６

振替口座名　：エゾリスの会

エゾリスの会　会報129号

発行日：2021．6．28

発　行：エゾリスの会

HP　ezorisunokai.jp

〒080-0027

帯広市西１７条南３丁目６－14

☎0155-33-4223

E-mail　info@ezorisunokai.jp

by たぬきケーキ

エゾリス

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

〖会報１３０号〗　2021.09.15

佐渡トキ保護センター実習報告

北海道大学獣医学部 4 年　伊藤萌林

帯広を離れてはや 4 年、相変わらずまだまだ大学生の人です。大学生という身分は非常に便利で、膨大な本が読めたり、学会にタダで参加できたり、バイトで研究の手伝いしたりとお得にお勉強しています。その中でも「実習させてください！」のメールだけで現場を見られるのはまさに大学生特権です。今回は日本の希少種保全の最前線、「トキの島」佐渡に行ってきたので思うことなど、つらつらと書きたいと思います。

ねぐら入り時のトキ。写真では綺麗な「朱鷺色」がわかりません。

実習に行ったのは、環境省が作り、新潟県が委託を受けている「佐渡トキ保護センター」でしたが、実際には佐渡でのトキ保全全般に関わってきました。

なぜここを選んだか？というと、日本が最も力を入れている希少種保全の実際は一体どのようなものなのか？を自分の目で確かめるためです。希少種保全は一般に、生息域内保全(例えば生息環境の整備)が重要であるものの、一般ウケが良く取り組みやすい生息域外保全（例えば飼育下のトキの増殖）に力が入りがちと言われます。日本の最先端（と思われる現場）はどうなのか？それを確かめるための実習でした。

「佐渡トキ保護センター」と聞くとバリバリの生態学系の人が沢山いて、毎日のように保全がどうのこうとの議論しているんだろうな…と想像していました（知床財団はそうでした cf.会報 128 号）。しかし、実際はそんなことはなく、非生物系の人も多く働いていました。なぜかというと、「佐渡トキ保護センター」はトキの飼育・繁殖を行い、放鳥するためのトキを増加させるための施設だからです。しっかりとした飼育マニュアルが作られており、獣医師も3人いたり、放鳥に向けた訓練を体系的に行っていたり(写真)と、繁殖、飼育、放鳥に関しては思ったより手法が確立していました。

放鳥訓練のための大規模ゲージ。手前に水田があり人慣れの訓練のために実際に農作業をするという凝り様。動物園の猛禽類ケージよりだいぶ広かったです。14 羽見つけられますか？笑 （佐渡トキ保護センター提供）

では誰が野生下のトキに関わっているのか?というと、環境省、佐渡市、市民ということになっているようです。

特に驚いたのは、佐渡に生息しているトキに関しては、環境省、自然研、市民ボランティアがどの個体がどこにいたという情報や、ねぐらの使用状況を毎日モニタリングしているという点です。トキは放鳥個体と野生下生まれの一部の個体に足環が付けられており、個体識別が可能です。市民の中には毎朝仕事前にモニタリングを行なっている方がいるとか…すごい情熱。。。

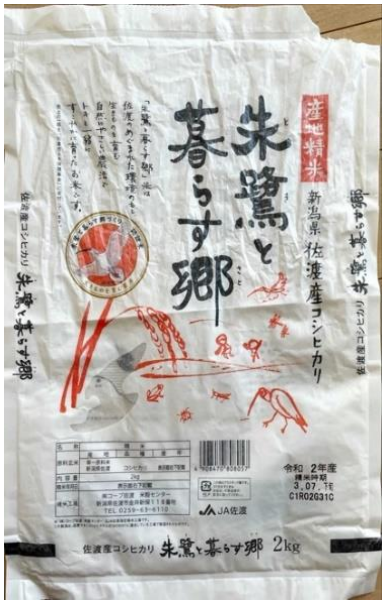
ちなみに余談ですが、ここで環境省の職員さんに NACS-J の T さんの大学の後輩という方を発見。やはりこの世界は狭いですね。笑

ここまではトキ自体の話ばかりでしたが、希少種保全の究極目標は生態系全体の再生・維持です。それに大きく関わる生息環境整備はどうなっているのでしょうか…？環境省の文章には色々とあるのですが、実質的には佐渡市の2つの事業がメインのようです。

その2つは、「米の認証制度」と「トキビオトープ」です。

「米の認証制度」では、農薬をあまり使わないなどといった複数の要件を満たした水田で作られた米を「朱鷺と暮らす郷」として認証しています。「トキビオトープ」は主に利用していない水田をトキの餌場になるよう管理すると補助金が出る制度です。

両者とも多少疑問点があり、特に後者は、年度単位で、またトキの餌場確保という方向性が強く、長期的・環境全体からの視点は欠けている印象でした。



認証米のパッケージ（上）。買って食べましたが美味しかった。

「ビオトープ」（左）。奥は荒れ放題。周囲の水田に水が漏れるから９月以降は貯水しないとのこと。

特にモニタリングをしていないのは残念でした。両者とも「生きもの調査を年2回する」とされているものの、定量化がなされておらず、変化の傾向すら掴めないという状況。よって実行策へのフィードバックもなく、佐渡市の担当者も「何をやったら良いのか（効果があるか）分からない」とのこと。モニ 1000 など多くの市民調査がある中で、トキの生息環境整備による変化がモニタリングされていないのは残念に感じました。トキ自体のモニタリングは毎日やるほど熱心なのに、トキの住む環境のモニタリングが疎かなのは、種そのものに注目が集まりがちな希少種保全の難しさを表しているなと感じました。

エゾリスの会では森づくり活動をすると同時に、モニ 1000 やエゾリスセンサスなどにより長期・強度に環境をモニタリングしています。そして、それにより感覚的にも数字的にも環境の変化を把握できていると思います。このことは非常に重要だなと思いました。

最後に。色々と書きましたが、全体的に見ると環境意識は高いなと思いました。自発的な保全活動が色々と起こっているなど、シンボル種としてのトキの効果を感じました。今後個体数が増加するにつれ、より幅広い活動が色々な場所で起こるのではないかなと思います。

今年生まれのクロサンショウウオ

とかち・市民「環境交流会」2021にパネルを展示します！

日時：２０２１年１１月２０日（土）

場所：とかちプラザ　アトリウム

今年で１９回目の開催となる標記の環境交流会に、当会の活動の写真等のパネルを展示します。

このことにより、広く帯広の森の現状や林床植生等を認識いただければ幸いです。

（写真は、２０１５年１１月２１日に出展した時の展示風景です）

編集後記

　緊急事態宣言が発出され、行動の自粛が求められている。帯広の森での活動は、自然との対話なので、三密になりません。

早く「枕詞なしで」で活動したい。n.m

エゾリスの会　会報130号

発行日：2021．9．15
発　行：エゾリスの会

HP　ezorisunokai.jp

〒080-0027
帯広市西１７条南３丁目６－１４
☎0155-33-4223
E-mail　info@ezorisunokai.jp

エゾリス

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

〖会報１３１号〗　2021.12.20

富士フイルムグリーンファンド（FGF）グリーンレターを読んでね！

エゾリスの会は、1990 年から現在まで、帯広の森の森づくり活動に関わってきました。しかし、これからも長く続く森づくり活動を見据え、自分たちがこれまで行ってきた森づくり活動の成果を評価してみたい。このようなことを思っていた時に富士フイルムグリーンファンドの複数年の助成を受けることができ、帯広の森の現状と森づくりの課題を整理し、これからの活動の道しるべを得ることができました。≪2016 年マスタープラン作成、2017～2020 年活動事業≫

4 年間の活動で成果の一環である林床について得られた知見を紹介します。

植栽された木の苗は年とともに成長し、間伐や草刈り等を行うことでより成長を促すことができます。一方、林床は、一度耕作地等に変更されたことにより本来の自生種が途絶え、外来種が繁茂していたりします。植栽木が枝葉を広げて森の環境が整えば、周辺の自然林からの種子が散布されて回復するのでないかと期待していましたが、ただ待っているだけでは回復が難しいことが調査で明らかになりました。林床植生の回復にも、タネの取り播きや苗の植栽といった人為的な手助けが必要と考えています。

豊かな林床が、森の多様性を育んでいます

先日、助成活動地の視察、取材に FGF 小林運営委員長、渡辺ニュースレター編集長、スタッフの方が帯広の森にお越しになりました。

同封いたしました FGF グリーンレター（4Ｐ～7Ｐ）に訪問記が掲載されていますので、ぜひご一読ください。活動は続きますので、皆様のご参加お待ちしています。

とかち・市民「環境交流会」2021 に帯広の森の活動の写真パネル展示！

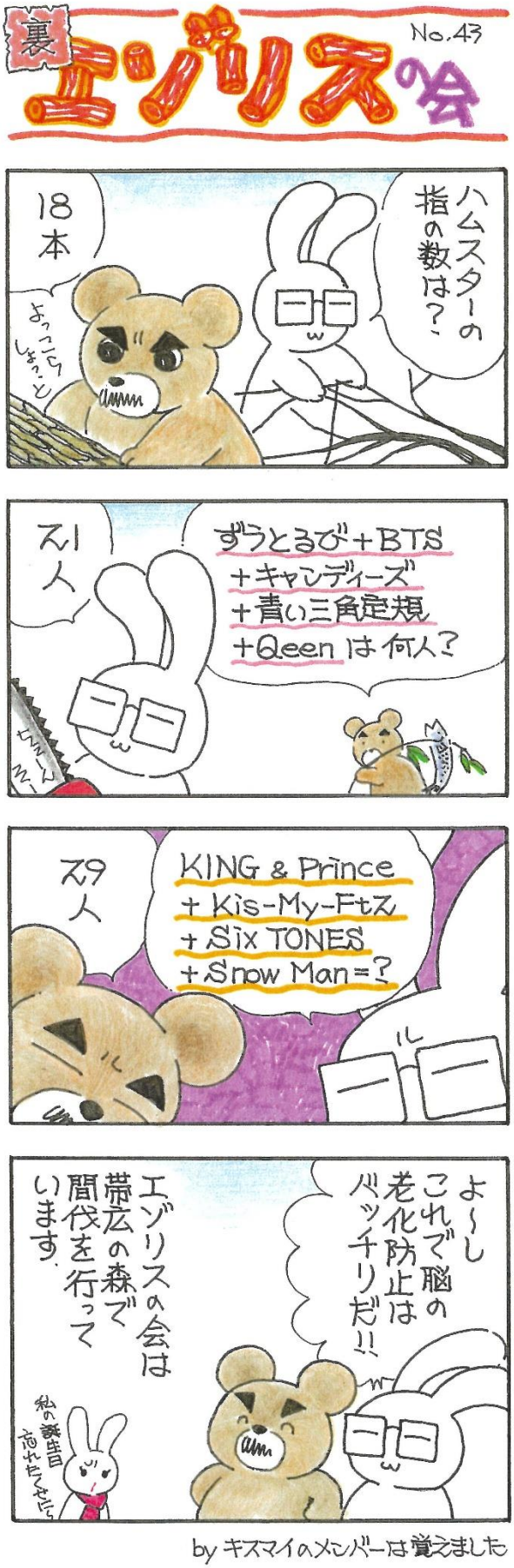
11 月 20 日（土）とかちプラザで開催され、帯広の森の活動写真パネル等 14 枚展示しました。今年で１９回目の開催となる標記の環境交流会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止等で例年より縮小されましたが、参加者の展示は充実し見ごたえある内容でした。

編集後記

変異する新型コロナウイルスには、ギリシャ文字の名前が付されているが、デルタ株……オミクロン株、残りのギリシャ文字は 9 個。使い果たさず収束してほしいが、その後は星座名等が考えられいるとか。みずがめ座の私としては、……　　n.m

エゾリスの会　会報131号

発行日：2021. 12. 20
発　行：エゾリスの会

HP　ezorisunokai.jp

〒080-0027
帯広市西 17 条南３丁目６－14
☎0155-33-4223
E-mail　info@ezorisunokai.jp